

114
A2011

建言



謹言
 惟ルニ士族ノ産ヲ授ケ田税ノ弊ヲ正スハ
 方今緊要ノ事件ニ候處兩條ノ成規ヲ熟按スレ
 ハ大ニ盡サ、ル所アルニ似タリ請フ臣カ見ル
 所ヲ略述セシ抑還祿法ノ大概ヲ考ルニ恩賜ノ
 金額實産ヲ立テ得ヘキ資本ニアラス分家祿六年
 額ハ八朱ノ利ヲ給リ残リノ半額ハ凡ニ歩五朱
 得ス又官有地ニテモ各地方ニ遍ラス開拓モ
 貧士ノ力ニ適當スルモノ各地方ニ遍ラス開拓モ
 非常ノ術策アルカ一時急迫ヲ凌ク人情アルニ
 了ラサレハ奉還シ得サルヘシ然ラハ則士族ノ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

急迫ヲ時トシ低價ヲ以テ祿米ヲ收入スルノ策
ニシテ産ヲ授クルノ實意ナキカ如ク徒ニ其功
ヲ卒ヘサルノミナラス却テ危疑ノ情ヲ増サン
若シ又陸續奉還セハ其賜金ノ為ニ準備金ヲ減
シ更ニ證券ヲ増シ措幣ノ空位果シテ存シ得ヘ
キヤ否ヲ知ラスノ流通措幣ニ殆ト一億萬圓準備
ヘテサル一朝侮ヲ取ラハ持リ措幣ノ墜敗ノ三十
ラズ擾乱必ス之ニ繼カニ改税法ノ顛末ヲ察ス
ルニ新稅大ニ減スヘキ重稅ノ地方ハ速ニ功ヲ
卒ヘ新稅増スヘキ輕稅ノ地方ハ成功期ニ難カ

ル可シ嚴酷ノ督責ヲ加フト雖氏奸曲至ラサル
十ク上下讐視シ事或ハ半途ニシテ艱マン仮令
之ヲ達シテ目的ノ如クナラシムルモ米價一石
七圓ノ上ニ出ツル寸ハ全國ノ地稅ヲ竭シテ僅
カニ華士族ノ家祿ヲ給スルニ足ルノ三正地租改
按ニ地券稅率ヲ百分三トスル寸ハ三正地租議
七テ余萬田トテ稅額トスル寸ハ三正地租議
テア計而シテ其田稅ノ額トスル寸ハ三正地租議
地券稅額ヲ得テ家祿モ石三限難シ試ミ目的一ノ
石券稅額トテ以テ家祿ニ決セ山此當スレ地券稅
額トテ以テ同縣ノ家祿ニ決セ山此當スレ地券稅
余トテ以テ國計立ツヘカヲサレハ決セリ夫如此

多少ノ困難アルモノハ他ナシ其理ヲ究メス其
形ニ泥ニ兩條ノ處置判然區別セラレニヨル
蓋シ此兩條ハ其原因ヲ同シクセリ故ニ兩條ヲ
混一シテ更ニ成規ヲ潤色セハ彼此ノ間長短互
ニ相補ヒ禍却テ福トナリ其法ハ寛裕ニシテ施
シ易ク其功ハ廣大ニシテ舉リ難タカラス其令
一タヒ下ラハ人々向フ所ヲ撰ヒ就ク所ヲ認メ
浮説惑ハス流言信セス始テ朝政ヲ樂ムニ至
ラシ方今人心洶々歸一セサル所以ノモハ一端
ハ家禄ノ非スト雖氏專ラ然ラシムルヲ知テ營生ノ目
的十ク農高ハク税法ノ大ニ變セシムルヲ知テ歸着

スル所ヲ認メサス四民挙テ其便否得失ノ略目ヲ
其生ヲ安ンセサルニ於テハ賜ルヘキ資本六年分ナル
舉ケハ士族ニ於テハ賜ルヘキ資本六年分ナル
モノ十五年分以テ上トナリハ其地ニ於テ所得一
石ノ地所ヲ買フヘキ地所官有地ノ三十分
ヘキ資本六年分以テ上トナリハ其地ニ於テ所得一
ルモノ遍ク熟田ヲ買ヒ得ヘク全八十分ノ地
所ヲ剽自ラ耕サス氏得ル所家禄ニ異ナラズ農
商ニ於テハ財産與奪ノ憂ヒ十ク輕重ノ地價
ハ價賤シ如此ナルモ其賤ノ價ノ非スル地價
法ノ記載セシメ私物タルノ證トシ然ルニ一
ニ之ヲ平均スルハ即財ノ與奪トシ然ルニ一
成増ス者ニハ金ヲ出サシム地價ヲ詐ルノ情

起ラスル地價ノ多クハ以テ直千ニ地券ヲ増減ス
シテ改税ノ入費ヲ出タサスシテ却テ村町ノ社金ヲ
積ミ改税ノ入費ニ苦ムル所アリ然ルニ原價ヲ以テ
當ツ之ニ聚斂ノ疑念ヲ解テ雜税ヲ出スノ義務ヲ
知リ然年税目ノ増減シタルハ氏問隨ル苦情アリ
ス示官府ニ於テハ士産ヲ殺クルニ官金ヲ費サ
ス田税ヲ薄クスルニ歳入ヲ減セス新税率ヲ定
減シ以テ詳算實數ヲ用フキヨ米價騰貴ス氏國計ノ顛
蹟十ク雜税ヲ興セハ直千ニ官用トナスヲ得
分改税ノ一成規ニ至ラシムルノ興スニ隨ヒ地租ハ終ニ百
分

万田ニ充ル迄ハ逐次地稅ニ割リ戻シ其上ニ出
ルニアラサレハ官府ノ用ト成サ、ルノ誓ヒア
タルニ同シ自却テ財速ニ増スヘキノ機ヲ啓ク此ハ
是施設上ノ得失ヲ掲クルモノ現今人心ノ向背
將來國力ノ盛衰ニ至テハ其關係更ニ大ナルモ
ノアリ實ニ千里ノ毫釐今日ニアリ速ニ針路ヲ
轉セスンハ恐クハ他日覆敗ノ大咎悔アラシ
ヲ以テ臣カ卑賤ヲ顧ス既ニ兩度建白スト雖モ
猶愚衷黙止スル能ハス更ニ其要領ヲ摘ニ飯ニ
兩條ノ成規ヲ改定スルノ公布按ト略則トノ如
キモノヲ草シ并テ法ヲ詳定スル所以ノ圖解ヲ

添へ謹テ御採擇ニ奉侍候多端錯綜ノ事理一冊
子ノ能ク盡スヘキニ非ズ御下問ヲ蒙ラハ一々
詳述可仕ト奉存候頓首謹言

明治七年八月

左院八等出仕木下助之

公告按

田税ノ法土地盛衰ノ變ニ通セス偏重ノ弊アル
ヲ以テ曩ニ地租改正ノ儀布告候ニ就テハ必定
平均ヲ得ヘシト雖モ從來田税ノ重キ雜税ノ輕
キ萬國ニ比類モ無之是民ヲ牧ヒ國ヲ護ルノ道
ニ違ヘリ且華士族常職ナリ各座食ヲ安セスト
雖モ其力ヲ施スノ途實ニ得易カラズ是亦方今
大患ナリ依之今般更ニ詳議ヲ盡シ此大田弊ヲ
脱却センカ為メニ地租改正家祿奉還ノ兩成規
ヲ潤色シ田税全額ノ内警ハ千ニ凡十分ノ四ヲ

減シテ警ハ四百八十萬石其内四百萬石ハ家禄
田興ヲ減ス故ニ地所ノ所得ヲ益シ残り六分ヲ以テ
二警ハ七百萬石地稅ト定メ而テ其収納ノ法ハ地券稅
ヲ更ニ所得稅トシ全國地所ノ所得高ニ配賦シ
テ百分ノ何分タルマヤ詳算シ之ヲ永ク地稅ヲ
収ムルノ規率トシ毎田其率ヲ用ヒテ田稅ニ比
較シ新ニ稅ヲ減スヘキ地所ヲ有スル者若干ノ
金ヲ出タセハ警ハ一石ニ之ヲ減シ新ニ増スヘ
キ地所ヲ有スル者ニハ若干ノ金ヲ與ヘテ價格ニ
洞之ヲ増シ華士族ノ家禄ヲ奉還スル者ニモ若

千ノ金ヲ與ヘ價格上某ノ家禄ヲ以テ直千ニ某
ノ田稅ヲ減セント請フモ亦之ヲ許シ各自適意
廣ク撰擇スルノ途ヲ啓キ此ニ與ヘス彼ニ奪ハ
ス土貢人カ期セスシテ平均シ士産民業相並テ
興隆スルノ方法別冊畧則ノ通定メラレ候條云
ス

畧則

地所ノ所得調へノ下

小作入レ付ノ米金高ヲ調へ出タスへシ小作年

々不同アルハ大略平均ヲ見積リ書出タスへシ

自作地自宅地又ハ山林等ノ如キモノハ
大畧類似比較ヲ以テ所得見積ルへシ

所得稅率ヲ定ムル下

全國ノ所得米金高調濟ノ上譬ハ從來ノ地稅千

二百万石ノ内家祿ヲ解クへキ分四百万石雜稅

ト十スへキ分八十万石ヲ引キ去リ残り七百二

十万石ヲ所得ノ總數ニ割付ケ百分ニ付何分ニ

當ルト公布スヘシ是即今後ノ所得稅率ナリ
凡數モ之ニ依テ決定スルモハ地方官ヲ參ヘ詳善シテ決
量ヲ舉ルモハ板ニ設ケタルナリ
江ハ實際ニ方リテハ地方官ヲ參ヘ詳善シテ決定

改稅帳面ノ下

地所一ト筆毎ニ所得高所得稅高旧稅高并旧稅
ト所得稅トノ差引何程減スヘキ分又ハ何程増
スヘキ分ト書記スヘシ此帳面ニテ直千ニ改稅
レハ此田ノ旧稅ハ何程重シ此畑ノ
旧稅ハ何程輕シト見ル為メナリ

田稅ヲ平均ナラシムル下

右帳面ニテ所得稅ヨリ重キ地所ヲ有スル者金

ヲ出タセハ六十圓ニ付一石ノ規矩ヲ以テ永ク
之ヲ免スヘシ又所得稅ヨリ輕キ地所ハ金ヲ與
ヘテ價格之ヲ増スヘシ

家祿奉還ノ下

家祿ヲ奉還スル者ニハ一石ニ付六十圓ノ規矩
ヲ以テ金ヲ與フヘシ又農ト熟談シ家祿ヲ以テ
直千ニ田稅ノ重キ分ヲ減セント請フモ亦之ヲ
許スヘシ

右兩條ノ價格ノ下

各府縣ニテ地所一石ノ所得東ハ八十圓西ハ四

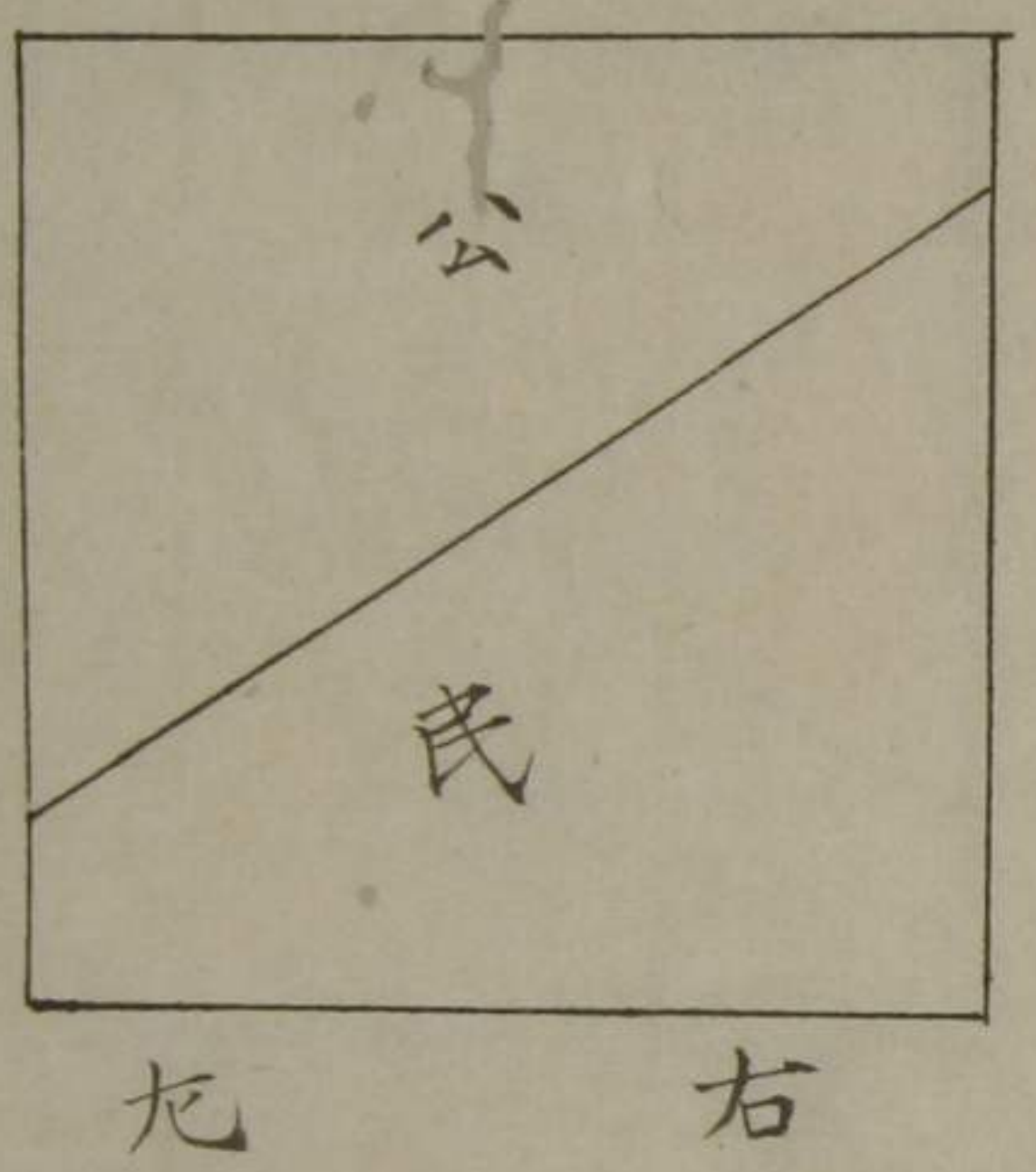
十圓ナラハ平均シテ六十圓トスヘシ而テ其價
 格ハ不動ノ定規ニ非ス時價ニ依テ依昂アルヘ
 シ一石ノ價格六十圓ナルニ減稅ノ願多ク還祿
 ノ願少キ寸ハ六十五圓トシ之ニ反スル寸ハ五
 十五圓トスルカ如ク始終權衡ヲ失フヘカラズ
 減稅還祿共ニ各願書ニ番号ヲ記シ置キ對偶有
 之分逐次濟メ出スヘシ對偶無之分堆積スルハ
 即偏重ノ徵候ナリ
 價格ヲ損益スヘシ
 社金ノ一
 今後雜稅ヲ納ルカ為ニ減スル田稅八十萬石ノ
 原價四千八百萬圓ハ官有ニ非ス私有ニ非ス今

後雜稅ヲ出クズ萬民共有ノ金ナリ故ニ每村每
 町ノ社金トシ凡千人ニ付改稅入費ヲ償フモ學
 校產物等公益ヲ興スノ用度トスルモ總テ其村
 町ノ衆議ニ委ヌヘシ
 雜稅ノ一
 田稅ヲ減シタル八十萬石ノ代ニハ凡四百萬田
 ノ雜稅ヲ課スヘシト雖モ卒然興スヘキモノニ
 非ス各國ニテ至當ト稱スルモノヲ採擇シ地方
 下詳議シテ漸ク施行スヘシ
 府縣ニテ出納順序ノ一

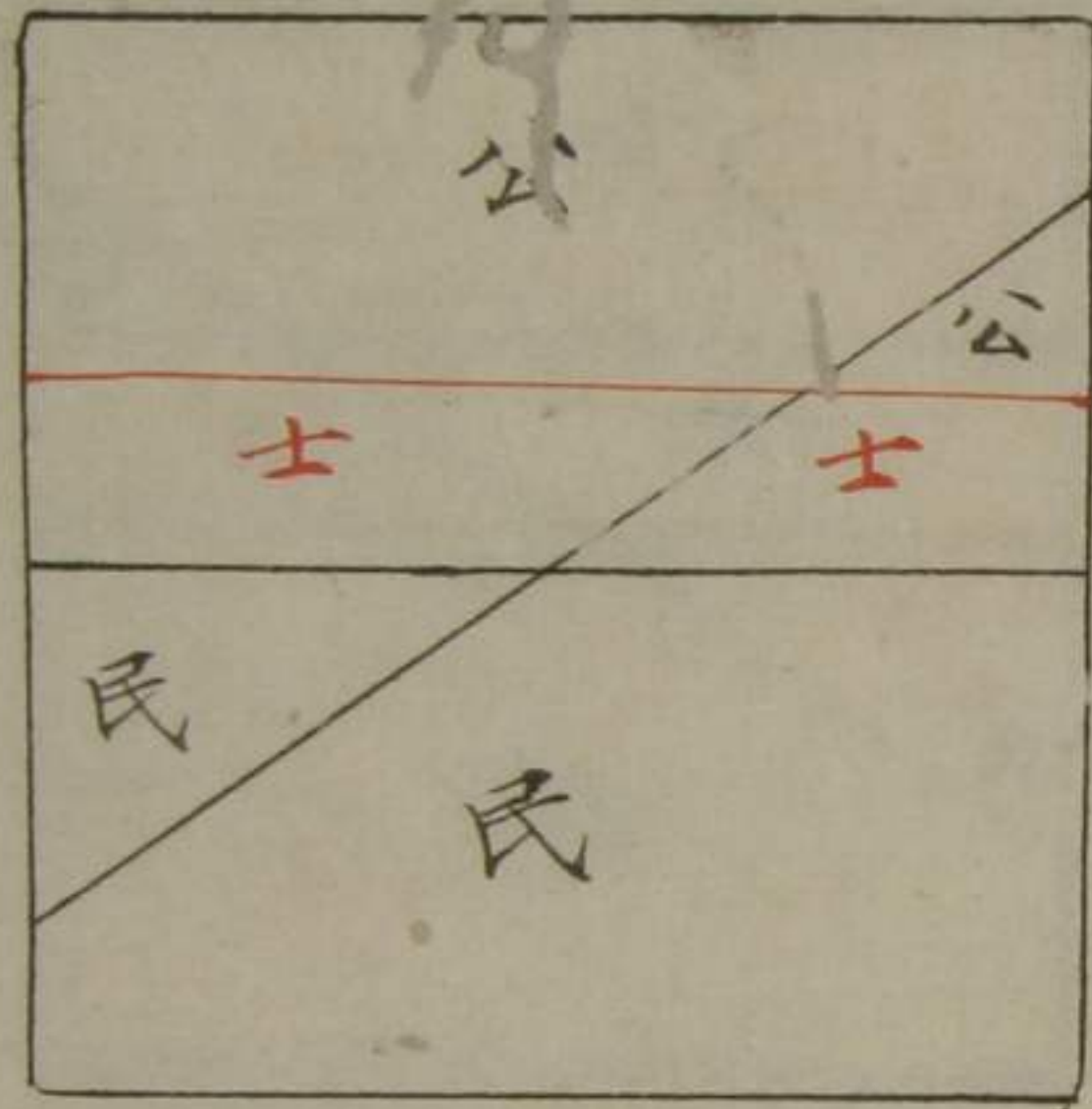
減税ノ為ニ集マル所ノ金ハ先ツ其地ノ社金ヲ
 與ヘ次ニ税ヲ増スヘキ地ニ與ヘ次ニ置縣後還
 祿セシ者ニ差引餘分ヲ與ヘ次ニ現在還祿出願
 ノ前後ヲ以テ與フヘシ家祿スヲ以テ直ニ此順序
ラニ係減税ノ地多ク還祿ノ士少キ府縣ノ餘金ハ
 省ノ指揮ヲ乞フテ他ノ府縣ニ送ルヘシ之ニ反
 スル府縣ハ他ノ送致ヲ待テ順ニ處分スヘシ

圖解

改税授産混一スヘキノ道理ヲ見ルノ圖

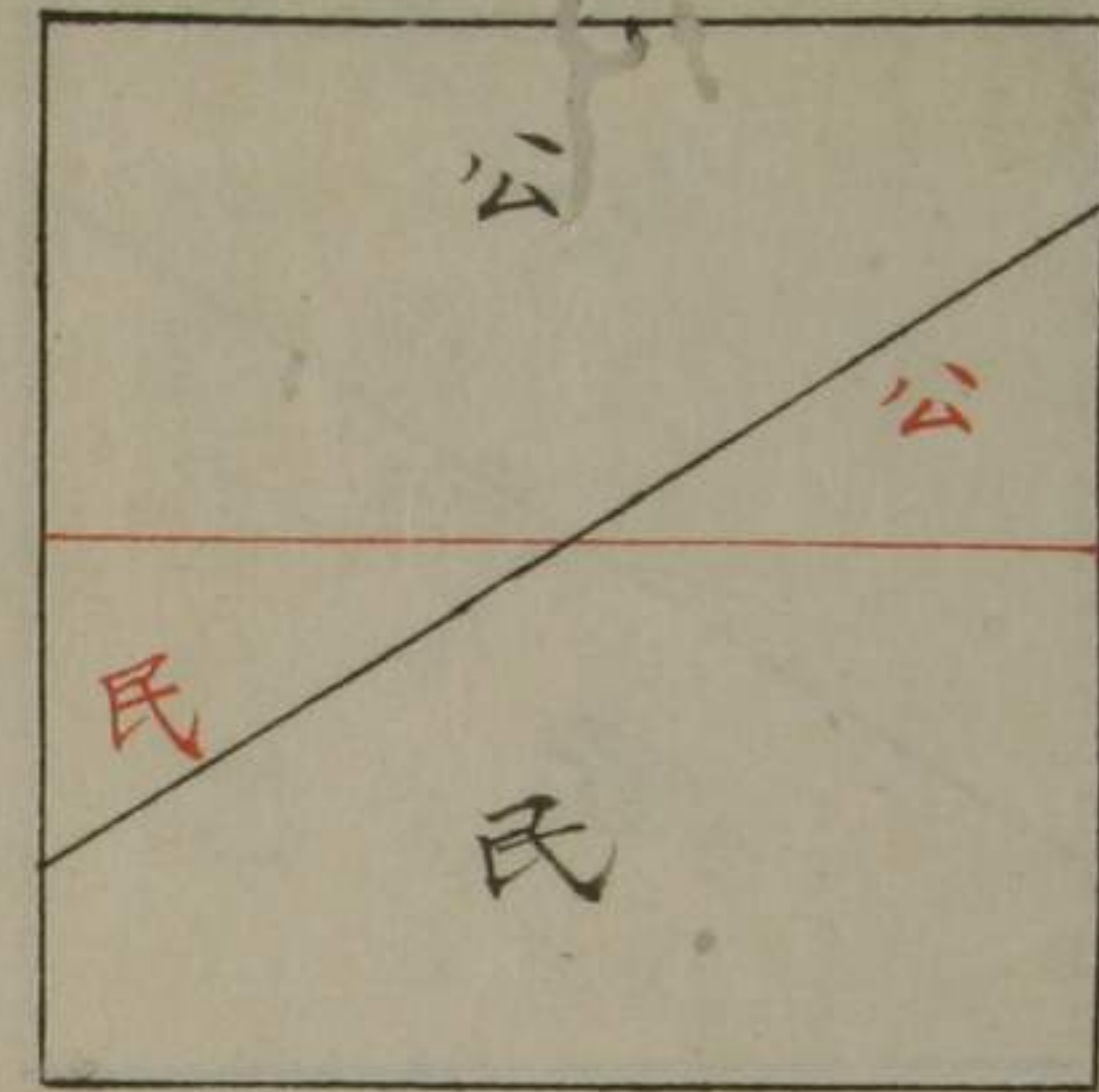


方面ハ全国地所ノ所得公ハ
 官納民ハ民産右ハ輕税ノ地
 左ハ重税ノ地斜線ハ田税輕
 重不同アルヲ見ル○斯ノ如シ
 改正平均セサル可カラス



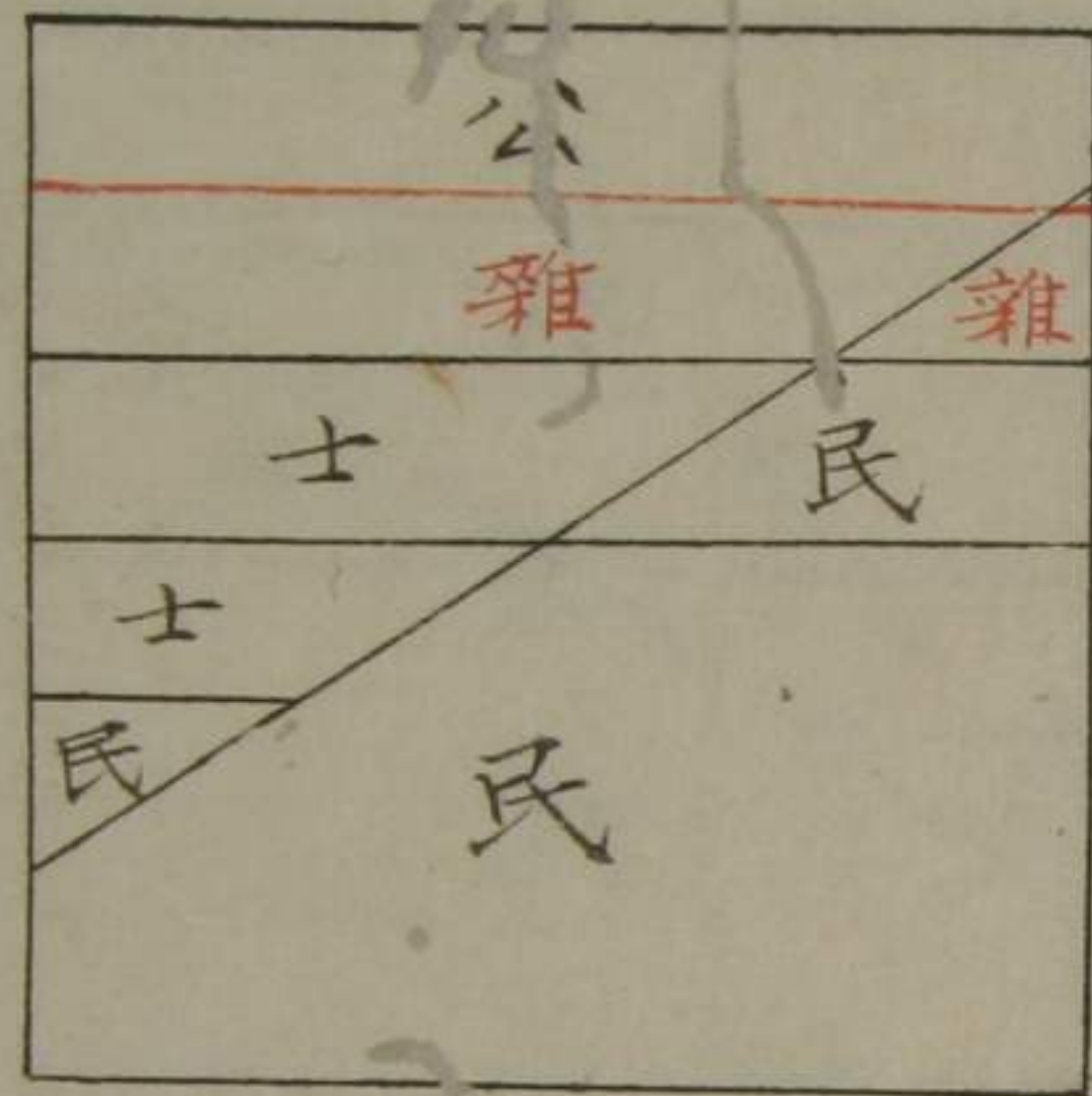
左 右

線ハ税額ノ内士禄ヲ民ニ歸シ
 タルヲ見ル○士禄ヲ民ニ
 歸スレハ士士ノ如クナレ民右ノ
 士ハ民有左ノ民ハ官有ナリ
 故ニ實際ハ右ノ士ハ左ノ民ノ内
 ト代リ下圖ノ如シ



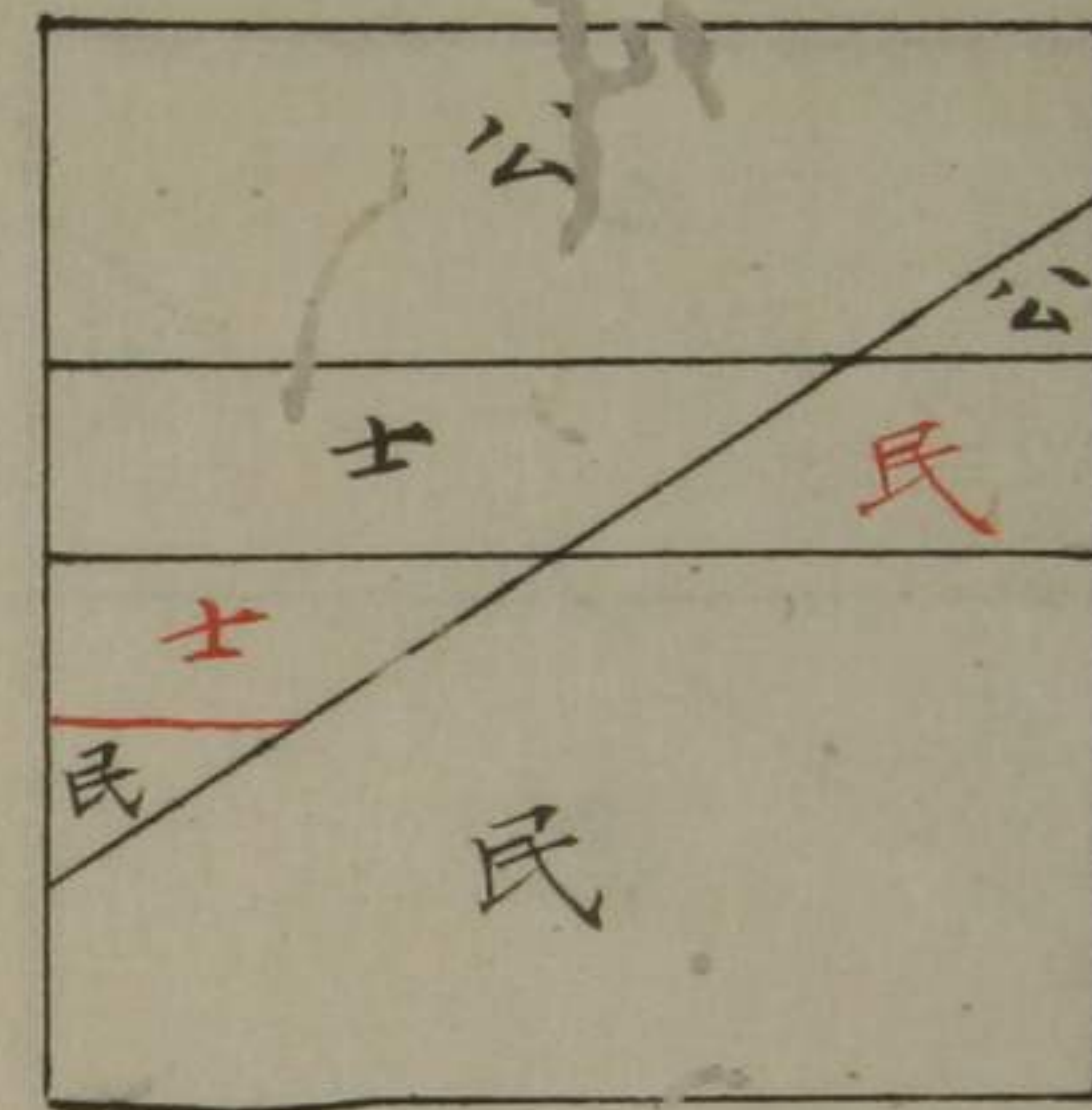
左 右

線ヲ加ヘタルハ不同ヲ平均シタルヲ見ル○斯ノ
 如ク平均スレハ右ハ公ノ利ヲ失ヒ左ハ民ノ利ヲ得故
 ニ右ニハ金ヲ與ヘ左ニハ金ヲ出
 ヲサシメサル可カラス○右ハ輕
 税豊饒ノ民ニ金ヲ与ヘ左ハ重税
 貧乏ノ民ニ金ヲ出タサシムル
 實際施シ難シ士禄ヲ以テ媒ト
 セサル可カラス



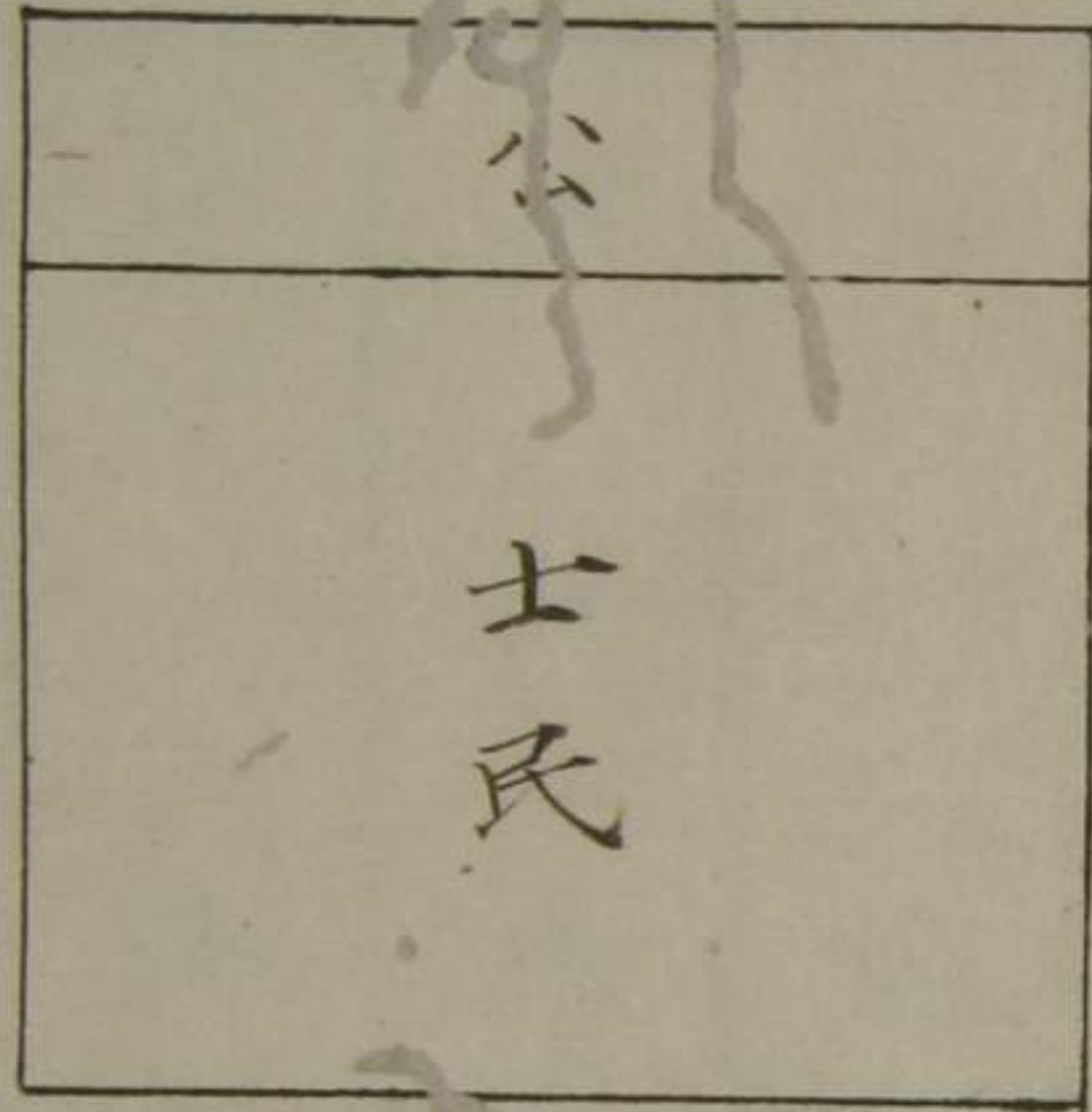
左 右

線ハ田税ノ内更ニ雜税ニ變
シタルヲ見ル○如此ナレバ右ノ
雜ハ民有左ノ民ハ官有アリ故
ニ實際ハ右ノ雜ト左ノ民ト代
ル下圖ノ如シ

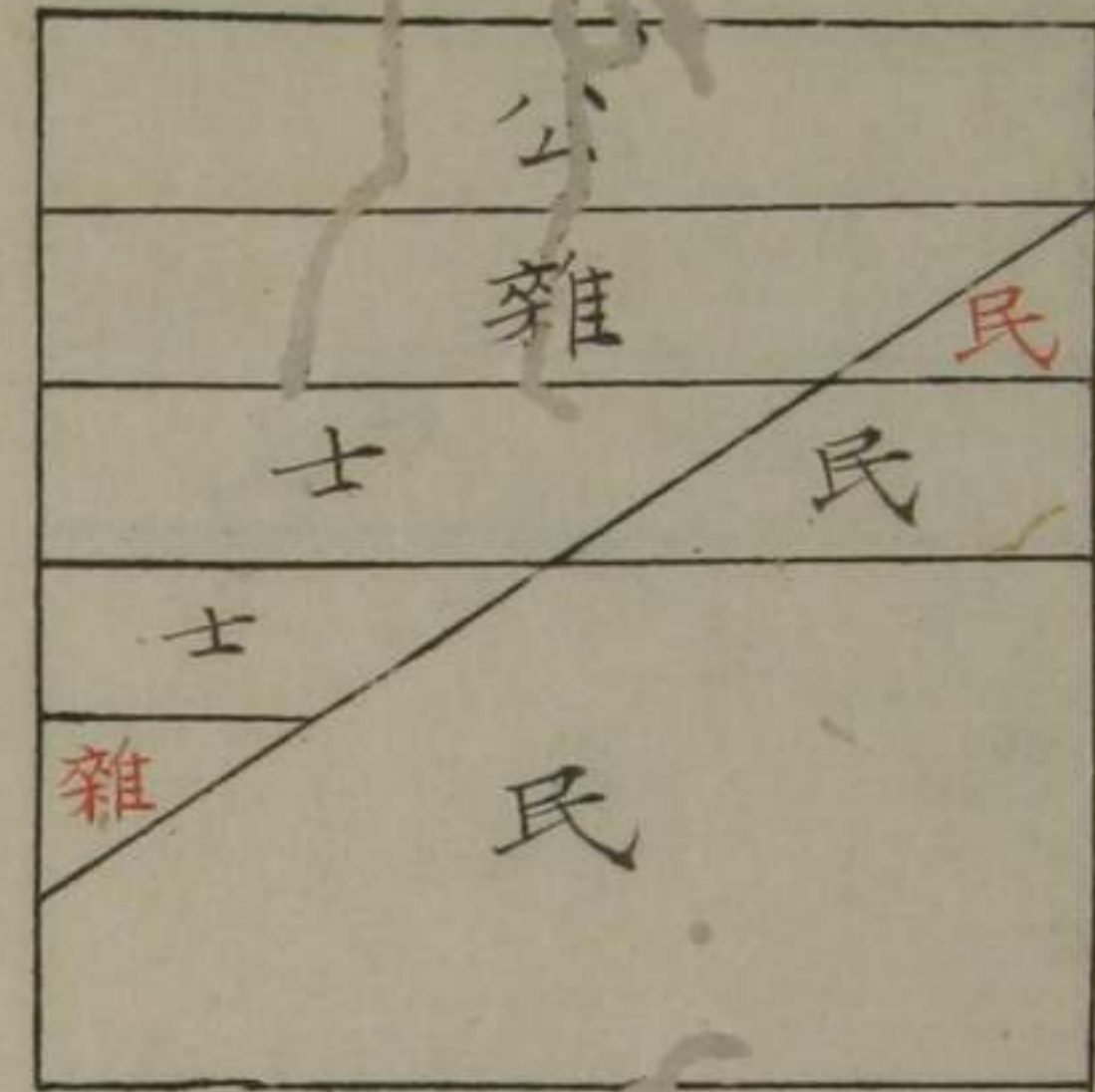


左 右

斯ノ如クナルナハ民有ソ變動大ニ減スト雖モ右ノ
公ト左ノ民トアリテ猶未タ盡サル所アリ○田
税ハ重シ減スヘシ雜税ハ輕
シ増スヘシ雜税ヲ増サント
セハ先ツ田税ノ内減セサル可
ラス下圖ノ如シ



斯ノ如クニシテ始テ田税減少
 シ土貢平均シ農ニ与奪ナク士
 ハ田産ニ就キ社金ヲ餘シ間税
 ヲ課スルノ機ヲ啓キ方策粗備
 ルヲ見ル



左 右

如此ナルハ農ハ固有ヲ失
 ハス士ハ田産ニ就キ雜雜ハ士
 農ノ有ニ歸シ代價ハ州邑ノ
 社金トナリ士農モ實ハ田産
 ニ別ナキヲ以テ下圖ノ如シ

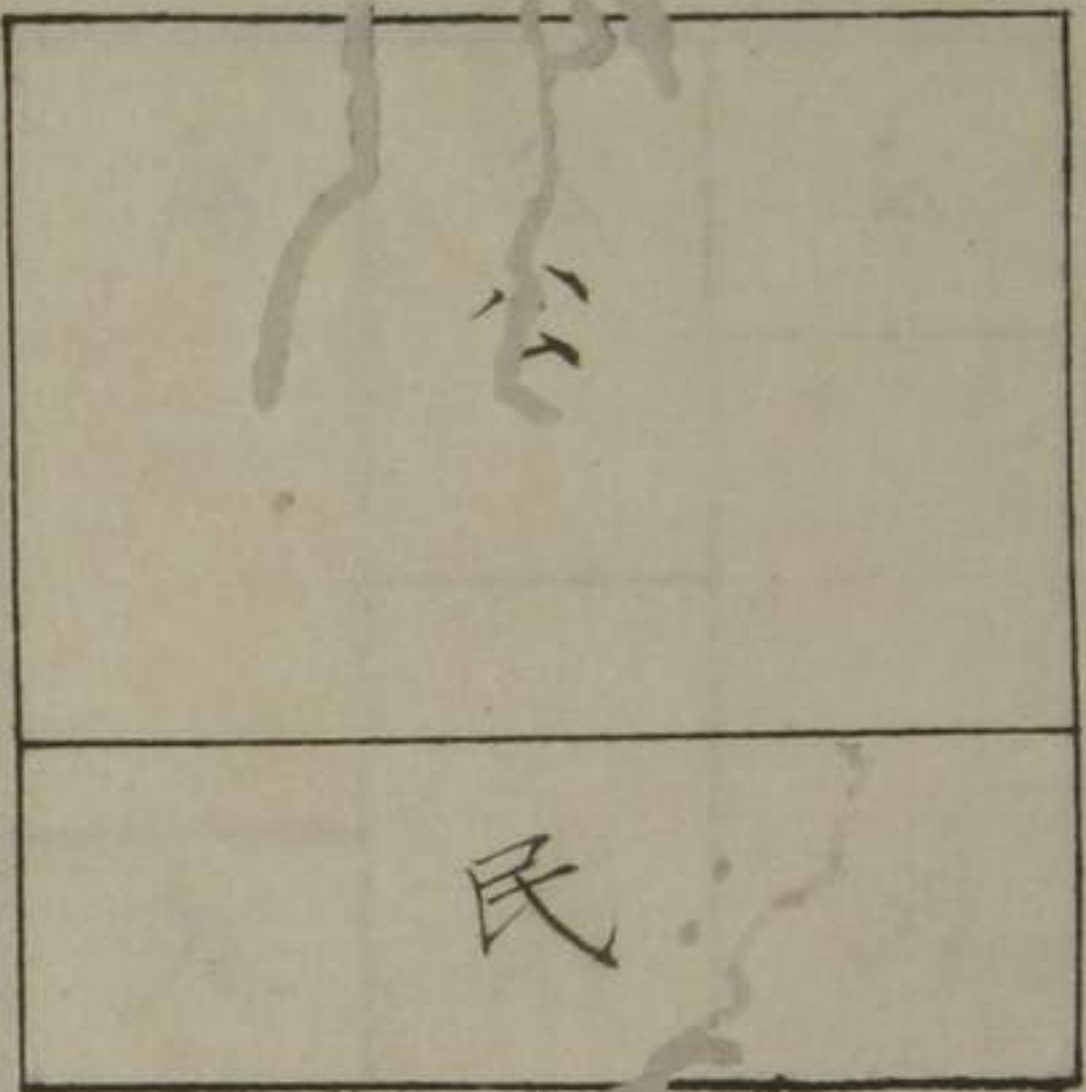


線ハ屢未ル小凶年点ハ稀ニ未ル
 大凶年ナリ○甲ハ屢無得トナ
 リ乙ハ稀ニ無得トナリ丙ハ稀ニ
 半ヲ減スルノミ故ニ甲ノ原價十
 倍ナラハ乙ハ十五倍丙ハ二十倍
 ナルノ差アリ是民間普通ノ
 價格ナリ



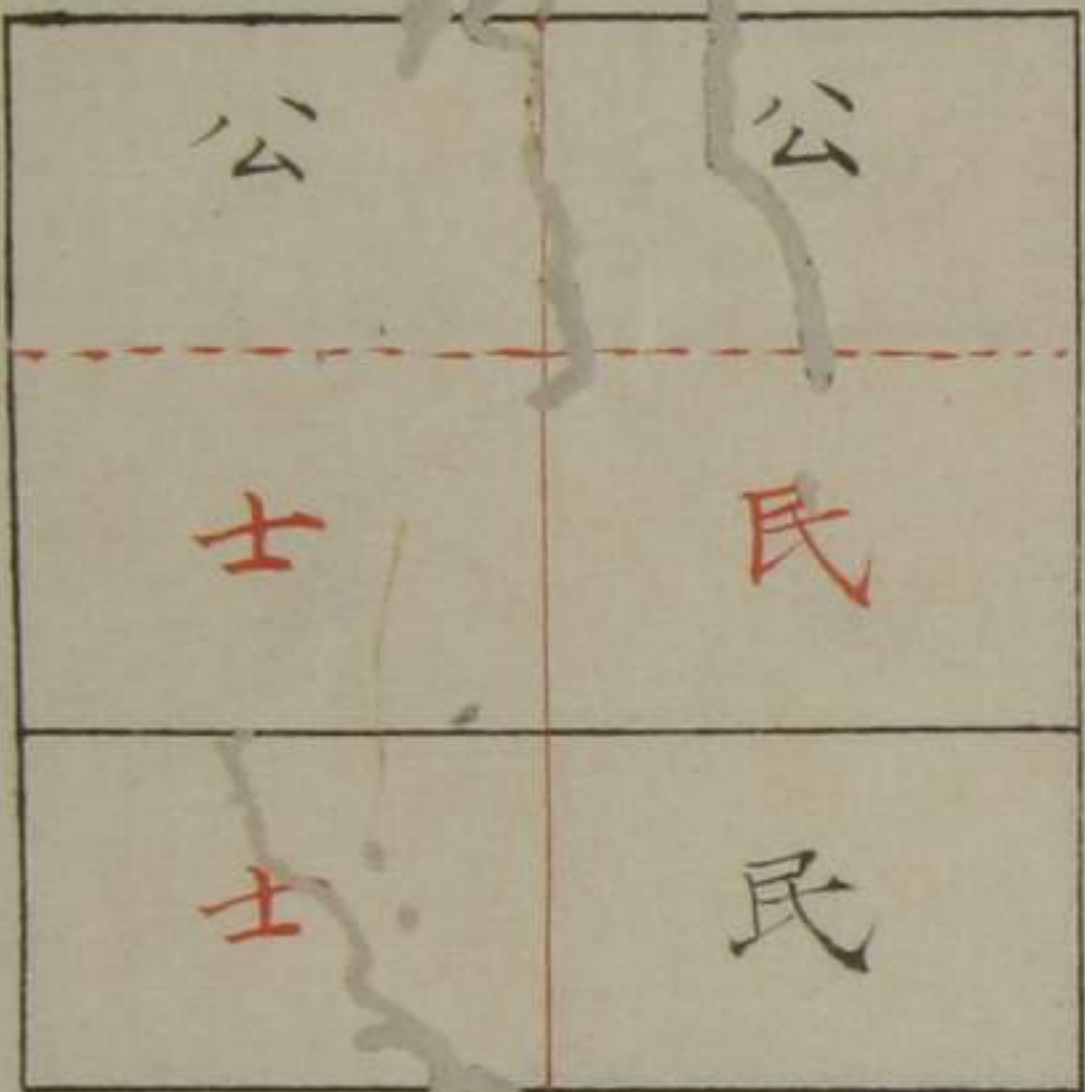
田稅輕重アレハ地價同矩ナラサルヲ見ルノ圖
 方面ハ甲乙丙ノ三田所得
 各三圓線ハ公民界稅ノ輕
 重アルヲ見ル○甲田ハ公ニ
 田民一田乙ハ公民各一田半
 丙ハ公一田民二田ナリ○如此
 ナレハ其地價タルヤ十倍ノ原價
 トスレハ甲八十田乙八十五田丙ハ
 二十田ナルヘキニ然ラサルモアリ下圖
 ノ如シ

重税ノ田ヲ士ニ分賣スレハ士農各大利アルヲ見



方面ハ地所一町歩所得三十圓其内二十圓ハ公十圓ハ民ナリ○之ヲ士分賣スル下圖ノ如シ

線ハ士農ノ界点ハ士祿ヲ以テ税ヲ減シタル界ナリ○甲農コノ一町ノ田ヲ有シ所得十圓アリ十倍ノ原價即百



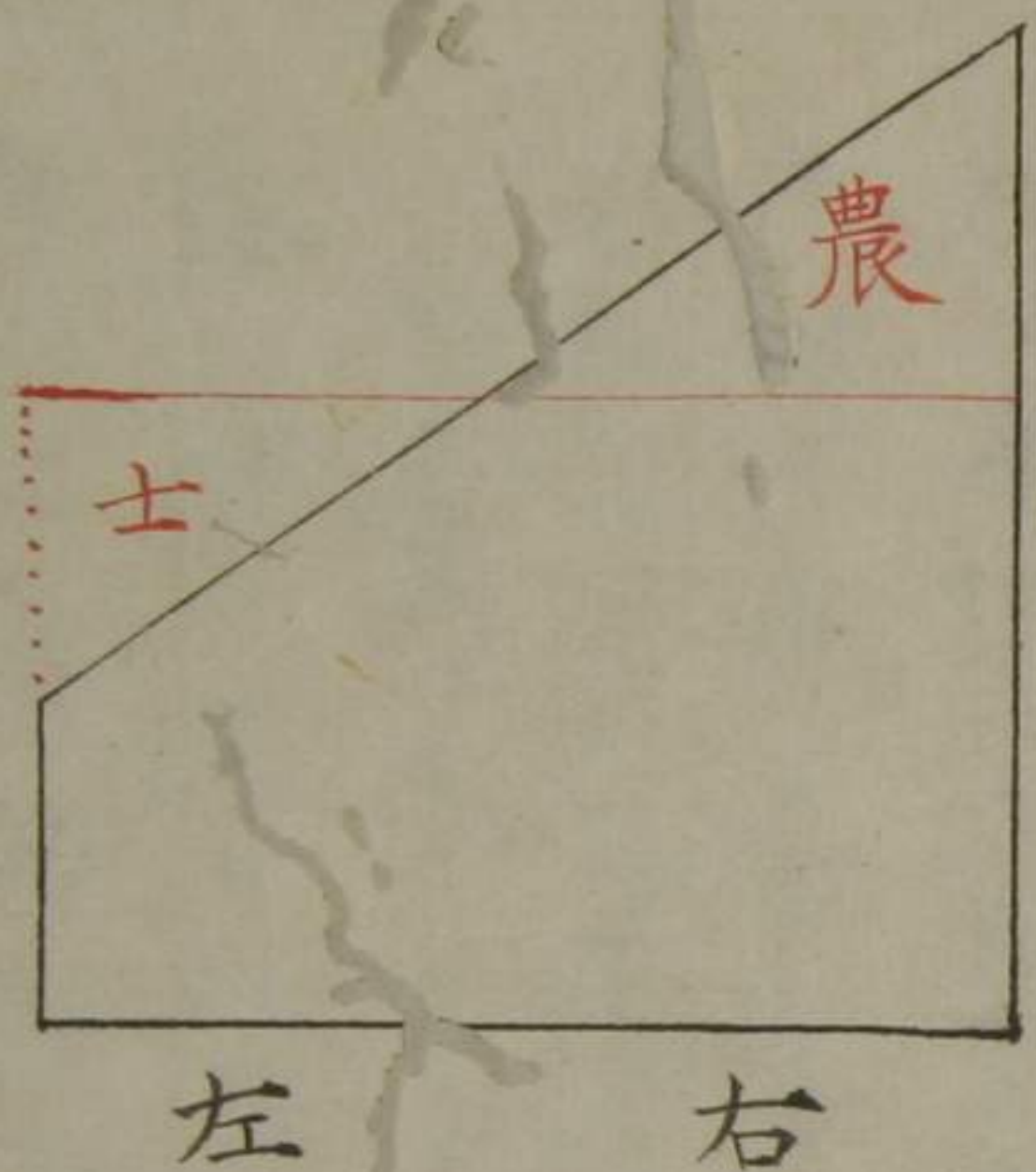
圓ナリ此内五反ヲ士ニ賣ル其代金五十圓アリ之ヲ納メ残り五反ノ税ノ内五圓ヲ減スルハ地所ハ半ニ減スト虽民所得八元ノ如ク十圓ナリ○士ノ十圓ノ祿ヲ奉還シ百圓ヲ賜リ○モノ五十圓ヲ以テ甲農ノ五反所得五圓ナルヲ買ヒ殘金五十四圓ヲ納五圓ノ税ヲ減スルハ是亦同ク十四圓ノ所得トナリ奉還ノ家祿ト異ナルナリ

公	公
士	農

圖ノ如クナレハ士農各損益ナキカ如シト雖モ田税ノ
輕重アレハ價格同矩ナラスシテ元十圓ノ所得十倍

ノ原價百圓ノ地券ナリシカニ
十圓ノ所得二十倍ノ原價四百
圓ノ地券トナリ士農各百圓ノ
財産ナリシモノ二百圓トナル○是
ハコレ座食スルニシテ然リ自ラ耕
スノ利ハコノ外ナリ

各府縣ニテ地所所得ノ平均價格ヲ設クルハ士農
共ニ益アルノ圖



右ハ農カ強クシテ貴キ地價左ハ
農カ弱クシテ賤シキ地價ナリ○
斜線ハ地價ノ不同○線ハ縣内
平均シタル價格ナリ○農ハ農ノ
益士ハ士ノ益○右ハ譬ハ八所得
一石ノ地券八十圓左ハ四十圓

平均ハ六十圓ナリ而テ右ハ常ニ賣ル者少キヲ憂ヒ左ハ
之ニ反ス○右ノ農ハ八十圓ヲ出スヘキニ平價六十圓ヲ

以テ一石ヲ得二十圓餘分アリ○士ノ一石ヲ奉還シ
平價六十圓ヲ賜リシ者左ノ地ヲ買フ寸ハ四十圓ヲ得
同シク一石ヲ得是亦二十圓ノ餘分アリ○故ニ右ノ
民ハ競テ金ヲ出タシ士ハ爭テ左ノ地ヲ買フ○士
ハ地ヲ買ヒタリトテ必ス土着スルニ非スト雖モ左ノ地ヲ
私有スル寸ハ農カ足ラスシテ地カ隱伏スルノ實況
ヲ知り漸々手ヲ下スヘシ○貧村ニ手ヲ下スハ即チ人
カノ平均ニテ独リ其士族ノ利益ノミナラス其村カ
ヲ興起スヘシ現ニ今此ノ理アルハ實ニ 皇國ヲ
富メ天然ノ一大機關ナルヘシ○左ノ地ヲ買ヒタル

士族ノ所得ハ家祿ニ比スレハ十ト十五ノ如ク地價
又之ニ倍シテ財産ヲ弄スレハ十ト三十トノ如クナル
ナリ如此ハ衆ニ先タチテ左ノ貧村廉價ノ地ヲ買
フモノヲ云フ後ル、者ハ然ラス今又コノ理アルモ實
ニ令セスシテ就産ヲ促ス天然ノ一機關ト云フ

